

「ニュースステーション」の報道をきっかけにダイオキシンが問題となっています。埼玉県所沢市の農作物から高濃度のダイオキシンが検出されているにも関わらず行政は隠しているというものです。

ダイオキシンは史上最強の毒物といわれ、ベトナム戦争では米軍が枯れ葉剤の中に入れて散布し多くの奇形児を生み出しました。また発ガン性もあるということです。この猛毒がゴミ焼却場から煙や灰と共にばらまかれ農作物を汚染しているようですが、一度体内にはいると蓄積され、母乳に含まれるということで恐ろしい限りです。

文明の発達には消費社会を生み、それによって今度はあふれるゴミで人間が汚染される。つい当たり前と思われがちな人々の健康や命の大切さですが社会全体でもっともって考える必要があるのではないのでしょうか。

< 第 4 4 回 ほほえみの会 >

風邪をひいている人が多くインフルエンザも猛威をふるっています。皆さんは体調いかがですか。バレンタインデーの日曜日には新会員を含め 8 人が出席しました。

告知の問題が出ました。

中学 2 年の男の子。腫瘍が出来て入院したが悪性とは知らせてない。こども病院に入院すると聞いたときも驚いていたし、本人に病気のことをどう伝えたらいいのだろうか。

これに対して参加した会員、先生、看護婦さんから様々な意見が出されました。

- ・中学生なら自分の病気に興味を持つだろうし今後薬の副作用で髪の毛が抜けるだろう。時期を見て早いうちに話をした方がいいだろう。ただし本人の性格もあるし担当の先生と一緒にあってタイミングと、どの程度話すか考えた方がいいのではないかな。
- ・入院して環境も変わり、テレビも見られない、電話もできない、自由がない、周りは小さい子がいっぱいいて話し相手も少ないなどストレスがたまるだろう。それ故に自分でしっかりと病氣と闘う意志を持つ必要があるのではないかな。

また堀越先生からは

- ・こども病院では基本的に告知をしている。そのためか 10 年ほど前より病棟内の雰囲気は明るくなっている。
- ・本人への話は 3 つのパターン
「家族の了解を得て医師が本人に話す」ケース
「両親と医師が同席して話す」ケース
「父親が話す」ケース
本人がどういう説明を受け、どうとらえたかを知る上では両親も同席した方がいいのではないかな。
- ・日本ではまだ本人が精神的に耐えられないのではないかなという議論もあるが、今の子ども達は親が思う以上に強い。
- ・骨髄移植をやった人達のアンケートで何が良かったかを聞いた。多い答えは「本人の納得」と「家族の支え」
納得しているからこそ強い治療、長い入院に耐えられる。

前回話題となった「兄弟の問題」で一度兄弟に対しての勉強会を開いたらどうだろうかという提案が看護婦さんからありました。アメリカでは進んでいて病気の子の兄弟が集まってキャンプに行ったりクリスマス会を開いたりしているそうです。

例えば 6 月の総会の時に子ども達にも参加してもらい、ゲームなどしながら兄弟姉妹の病気について先生から説明をしてもらう機会を作っても良いかもしれません。ご意見をお寄せ下さい。

次回は 3 月 1 4 日 (日) 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一